

AIM

AOYAMAGAKUIN
UNIVERSITY
INSTITUTE
OF
INFORMATION
AND
MEDIA

青山学院大学 情報メディアセンター

応える

Support

ICTの活用による教育の高度化を目指し、
教育研究システムの利活用を中心に、
多様化する教育環境に応じたサポートを行っています。

多様な形態に応える

現在、大学教育では、講義を受ける「受動的な学び」の形態だけでなく、学生が自身の学習を自らマネジメントする「能動的な学び」が重要だとする認識が高まっています。しかし、このような考えを反映した新しい教育を創るためには、学習に関する専門知識とそれを実現する環境が必要となります。

特に「能動的な学び」では個人の学習プロセスや学び方を学生に個別で支援する活動が必要となるため、学習活動の把握を容易にし、教員と学生、また学生間のインタラクションを促進するICTの活用がポイントとなります。AIMでは2013年度の教育研究システムのリプレイスに際し、新しい教育学習支援のかたちとして、全学を対象に授業支援システムを導入、映像収録・動画配信サービスを開始しました。

また、同時にこれらのサービスの利用方法や実際にこれらを授業でどのように活用したらよいかを支援する活動を進めています。

具体的にはAIMが展開するサービスの使い方を支援し、問い合わせや申請に常時対応するサポートラウンジの運営、教育工学を始めとした高い専門性を持つセンター教員によるICTの活用支援を行っています。

全学に展開する幅広いサービスと、それらを活用するための深い支援を通して、AIMは教育実践の支援者として教育者と新しい関係を築き、ICTを活用した青山学院の教育のかたちを共に創造していきます。

授業支援システム

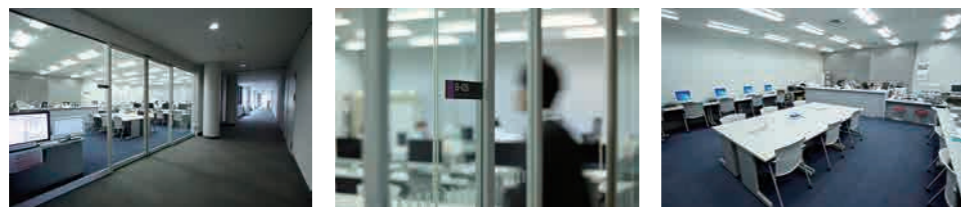
LMS (Learning Management System) と呼ばれるICTを活用した学習の基盤となるシステム。資料の配布やレポートの収集などが簡単に行えたり、受講生の学習進捗や成績などを管理することができる。

映像収録・動画配信サービス

専門のスタッフが授業を収録しLMSなどからその映像を配信することができるサービス。教員個人で準備することが困難なマルチメディアコンテンツを活用した教育を実現するため、2013年度からサービスを開始した。

サポートラウンジ

AIMが展開するサービス、システムに関する利用方法や各種相談などに専門のスタッフが対応するサービス窓口。青山・相模原の両キャンパスに設置され、利用者からの多様な問い合わせを集約し内容に応じたエスカレーションを行うワンストップサービスを展開している。



支える

Sustain

コンピューター設備とネットワークシステムの向上を常に図り、信頼性と安定性の高いICT環境を提供するために努めています。

教育・研究活動を支える基盤として

キャンパスネットワークは、既に大学の教育・研究には欠かせないものとなっています。もはやその全ての活動の基盤となっていると言っても過言ではありません。

青山学院はこのキャンパスネットワークを約2万5千人の学生・生徒・児童・教職員が利用しています。AIMはこの大規模なネットワークを安全に安定させ、そして便利に活用できる環境を整備しています。

そして次世代のネットワークとその利用方法を先読みし、常に時代に適合していくためにその範囲を広げています。

例えばネットワークの利便性をより向上させるため、キャンパス内のどこにいても無線LANネットワークを利用できるよう整備をすすめています。近年その利用率が爆発的に増加しているスマートフォンやタブレット端末の存在を無視することはできませんし、キャンパス内のあらゆる活動がオンライン化されていくことは自明です。それにはネットワーク環境の拡充は絶対条件と言えます。

しかし、ネットワーク環境が充実していったとしても、それ自体が使いやすいものでなくては意味がありません。ネットワークは利用されてこそ価値があります。そこで、一つのIDとパスワードの組合せだけで、学内の様々なオンラインサービスが利用可能になる統合認証システムを導入し、また更なる利用シーンに対応できるよう整備をすすめています。この認証環境はキャンパスの分散を活用し冗長化構成をとることで、災害などによる被害からの回復措置にも対応できるようにしているため、安心して利用をすることができます。

また大学の研究機関としての活動を支えるための自由な実験・実験環境をオンデマンドに提供するサービスも開始しました。例えば仮想化技術を用いて研究活動に必要な実験用サーバー環境の提供などをしています。これによりユーザーはコンピューター機器を用意しなくとも、必要なときに必要な規模の環境を借り受け、自由に構築し、授業や実験・検証などに利用することができます。

このように、教育・研究組織として、様々な利用者を尊重し自由で安全に活用できるキャンパスネットワークを実現するために、AIMは不断の努力を傾注しております。

キャンパスネットワーク

青山キャンパスと相模原キャンパスでは、ほぼすべての建物にネットワーク環境が張り巡らされ、またキャンパス内のほぼ全域で無線LANサービスを提供している。ネットワークの利用時にユーザー認証を行うことで、セキュアな環境を実現し、教員や学生だけでなく一時的な利用者へもネットワークを提供することが可能である。

統合認証システム

一つのIDとパスワードの組合せでパソコンを始め、ポータルサイトや図書館システム、メールシステム、無線LAN、授業支援システムといった様々なオンラインサービスが利用可能である。

キャンパスクラウドサービス

教育・研究活動に必要となる実験的なサーバー環境や個人のデスクトップ環境などを、仮想化技術を用いてオンデマンドに提供している。



育む

Educate

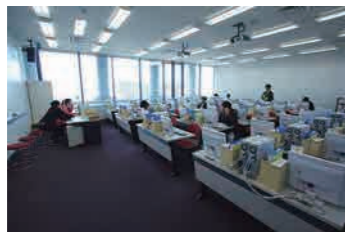
日進月歩の情報化社会の発展に適応し、高度に自らのICT技術を活用できる人材を育成するため、その教育のあり方について考えています。

IT講習会

全学部の新入生が、情報モラルと情報リテラシーを自学自習形式の「IT講習会」で学んでいます。自学自習とは自ら計画し、学び、問題を解決するという、大学における基本的な学習形態です。「IT講習会」の履修により、情報技術(IT)の変化に対応できる能力が身に付くだけでなく、高校までの受動的な学習から、大学における能動的な学習へスムーズな転換が可能で、インターネットは日常生活の基盤となっていますが、その一方で利用上のモラルやマナー(ネチケット)は幅広く浸透していません。また、学生生活のみならず卒業後もさまざまな場面でPCに習熟していることが求められます。社会人として必要なIT利用上の素養を身に付けるために、これらの習得は必須となっています。そして、自学自習をサポートするのが教員ではなく、「IT講習会」に関する一定のスキルを身に付けた「IT-A(IT-Assistant)」という上級生であることも、「IT講習会」の大きな特徴です。IT-Aは新入生の立場で陥りやすい誤りについて指導するだけでなく、IT-A自身も教えることを通じてさらにスキルアップできるという好循環が生まれています。

多彩なICT人材を育む

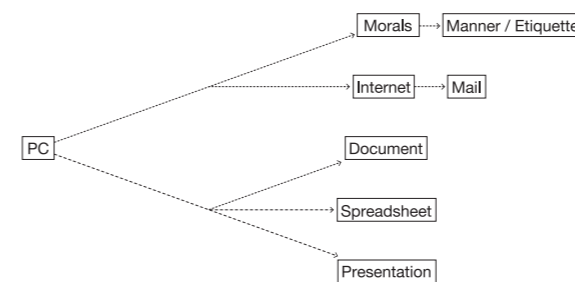
様々な個別の実践的スキル習得を目的として正課外の各種講習会プログラムを展開しています。「IT講習会」で身に付けた基盤の上に、特定のソフトウェアの操作や、ある分野の技能を深く追求することで、日々の生活を便利にする、ちょっとしたICT活用のアイデアを創出できる人材から、企業において即戦力となる人材まで、多様なICT人材の育成を目指しています。そのために目標とする実践的スキルに応じて適切なボリュームの、柔軟なプログラムを複数提供しています。例えば、実践的なメディア創造の入門を目的とした、グラフィックデザインをIllustratorで作成するプログラムを1日完結型のワークショップ形式で複数回開催しています。一方で、ネットワーク技術者に要求される知識と技術を体系的に学ぶプログラムでは、数ヵ月におよぶ本格的カリキュラムを用意しています。このようにAIMでは学生の多様なスキル習得のニーズに応えた教育プログラムを展開しています。



AIMの考えるICTスキル習得の流れ

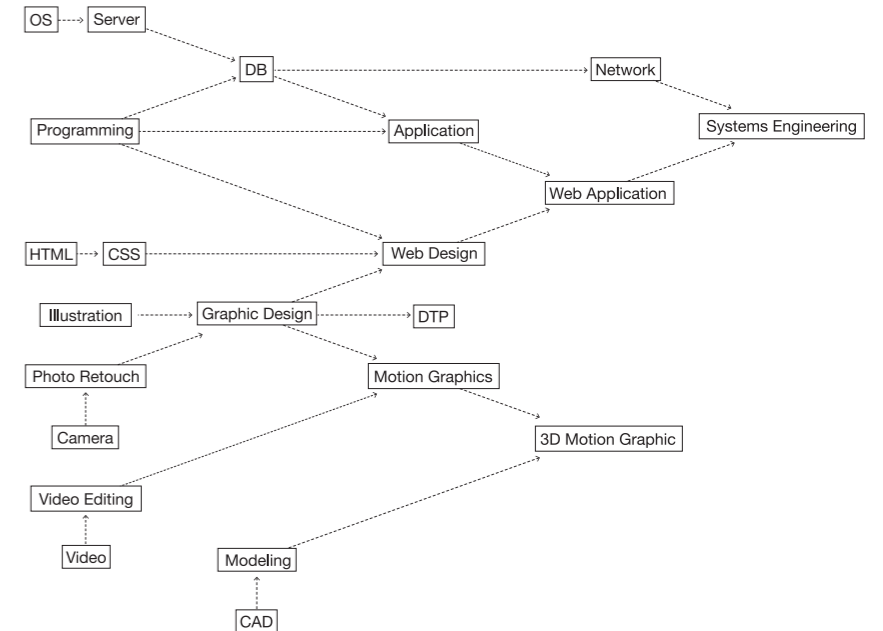
基礎スキルの習得

「IT講習会」でパソコンの基本操作から、インターネットやメールに関する基礎知識、オフィスアプリケーションの基礎スキルを習得する。



専門スキルの習得

AIMが主催する各種講習会で専門性の高いICTスキルを習得していく。また個々の講習会を相互に関連させることで、範囲の広いICTスキルを網羅できるよう展開していく。



先んずる

Precede

近未来の情報環境や教育のあり方を見据え、現在進行形の教育ニーズに対応するための、実践的な研究活動を行っています。

近年の研究テーマ

教育研究システム

次世代の大学教育・研究を支える情報基盤や情報環境のあり方について調査ならびに実証を通じた研究活動を行っています。学習活動が今後ますます個別化していく中で、個々の学習ニーズに対応できる学習デバイスとしての情報機器と、その効果的な活用を支える情報基盤の構築が次世代の教育研究システムとして求められています。

e-Learning / 学習支援システム

大学教育の質向上を目指し、学習者主体で、多様な学習活動を支えるための学習支援システムのあり方について、またこれに関連して、e-Learningやタブレットを活用したインタラクティブな教育活動、アクティブラーニングなど、近年の大学教育でますます重要となってきた学習手法について、実証実験を兼ねた研究活動を行っています。

情報通信技術

教育研究活動の多様化に合わせて、ネットワーク利用ニーズがますます高まっています。一人一台の携帯端末の時代におけるネットワーク接続性の確保、高度なセキュリティを実現しつつも利便性を損なわない情報基盤の構築や、システム運用のあり方についての研究を進めています。

情報基礎教育

大学における情報基礎教育は、これまでの情報機器の操作教育から、情報を効果的に利活用する教育へとシフトしてきました。新しい大学教育における基礎能力の養成、社会人として求められる資質能力の育成、情報機器を活用した自学自習のあり方など、さまざまな観点から情報基礎教育の今後を考えています。



教育の価値を創造する

十八歳の人口は減少の一途をたどっています。もしこの傾向が続いていくとすると、大学は縮小化していかざるを得ないでしょう。つまり「何を残し何を捨てるか」を決めなければならない時がいずれ訪れるということです。

今出来ることは、その時に正しい選択をするための準備です。では大学の情報部門は今、一体何が出来、そして何を成すべきなのでしょう。

AIMは大学の情報部門が成すべきことは「ICT教育の価値創造」だと考えています。そこで「教育研究支援プロジェクト」というものを立ち上げました。これは、センター教員が実際に行われているICTを活用した教育活動の中にメンバーとして入っていき、何らかの貢献をして還ってくる、というものです。

つまりAIMが「ICT教育の価値創造」を担うということです。そして、ただ還ってきて終わりにするのではなく、それ自体を「評価」します。「これは良い取り組みだ、これは非常に良い、これは駄目だ」というように「評価」をしていくことで、いずれ訪れる決断の場面、つまり「何を残し何を捨てるか」を決めなくてはならなくなったときに、正しい選択ができるようになるのです。これまで大学の情報部門は「価値の創造」や「評価」ということをしてきませんでした。今こそ、ここに足を踏み出し、軌道修正をしていかないといけません。利用者にサービスを提供して終わりではなく、提供したサービスによって利用者の価値創造に役立ったかどうかを見届け、それを後に繋げていかなければいけないのです。

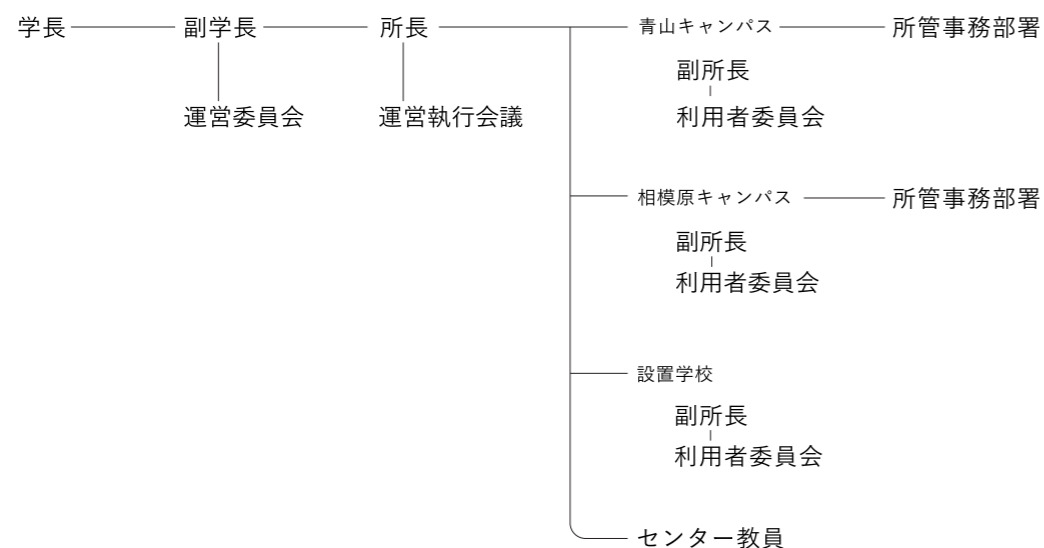
教育研究支援プロジェクト

AIMの研究活動は、次世代に向けた様々な研究活動に加えて、今求められる教育ニーズへの対応や、問題解決方法の提供など、実践現場への反映を強く意識した研究活動も合わせて行っている。教育研究支援プロジェクトを通じて、各学部・研究科や設置学校の教員と、センター教員がタッグを組み、共に実践、研究に取り組む体制を整えている。

<近年の実績>

- ・ソフトウェアの利活用支援
- ・ネットワークプログラミング開発支援
- ・ICT技術を利用した授業支援
- ・タブレットを用いた授業展開の支援
- ・アクティブラーニングの導入支援
- ・無線LANやネットワーク技術を利用した研究支援

組織図



沿革

- 1964年 4月 電子計算センター創設(教育研究システム OKITAK 5090-C 導入)
- 1969年 3月 電子計算センター廻沢分室開設 (教育研究システム IBM7040-1401 導入)
- 1971年 4月 電子計算センター廻沢分室を理工学部計算室に改組
- 1972年 5月 事務近代化室開設
- 1973年 3月 電子計算センターを計算センターに改称
- 1975年 5月 計算センターと事務近代化室を統合し、情報科学研究センターを発足／
理工学部計算室を情報科学研究センター世田谷分室に改称
- 1980年 10月 ACOS システム導入
- 1982年 4月 厚木キャンパス開学に伴い、情報科学研究センター厚木分室開設(ACOS システム・スーパーミニコン導入)
- 1985年 10月 パソコンシステム導入
- 1987年 11月 情報科学研究センターより事務システム部門分離
- 1988年 10月 スーパーコンピューター SX-1EA 導入
- 1989年 2月 ネットワークシステム試験運用開始
- 1994年 10月 学院基幹ネットワークシステム運用開始／ワークステーションシステム導入
- 1997年 10月 教育研究システム更新(青山・厚木・世田谷キャンパス)
- 1999年 10月 学院基幹ネットワークシステム更新
- 2000年 10月 教育研究システム更新(青山・厚木・世田谷キャンパス)
- 2003年 4月 相模原キャンパス開学に伴い、情報教育支援グループ設置／教育研究システム運用開始(相模原キャンパス) ／
相模原キャンパスネットワークシステム運用開始
- 2004年 4月 学院基幹ネットワークシステム更新／教育研究システム更新(青山キャンパス)
- 2006年 4月 教育研究システム更新(相模原キャンパス)
- 2009年 4月 青山学院次期 ICT ネットワークシステム更新の一部として
 - ・学院基幹ネットワークシステム更新
 - ・相模原キャンパスネットワークシステムを学院基幹ネットワークシステムに統合
 - ・教育研究システム更新(青山・相模原キャンパス)
- 2013年 4月 情報科学研究センターを情報メディアセンターに改称
教育研究システム更新(青山・相模原キャンパス) ／
授業支援システム(富士通 CoursePower) 導入／講義配信システム(メディアサイト)導入
- 2014年 4月 学院基幹ネットワークシステム更新

青山学院大学 情報メディアセンター

<http://www.aim.aoyama.ac.jp/>

contact@aim.aoyama.ac.jp

青山キャンパス
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25
Tel.03-3409-7850

相模原キャンパス
〒252-5258 神奈川県相模原市中央区淵野辺 5-10-1
Tel.042-759-6007